

リスニング能力向上のための方略 －実施したリスニングテストの分析から－

宮奥 正道*

A Strategy for Improving Listening Ability Based on the listening tests

Masamichi MIYAOKU,

Abstract

The introduction for English Teaching in Japan has been drastically changing since 2000. In the year of 2000, the report, '*Japan's Goals for 21st Century*' was published by the members of the Prime Minister's Commission. In spite of a lot of controversial criticism, The Minister of Education and Science declared a new language policy, '*Action Program to Cultivate Japanese with English Abilities*' in order to realize the main idea of the report. All junior and senior high school teachers of English all over Japan have to undergo a special training program, "Brush Up". In 2006, a listening comprehension test was introduced in the Center Test, a unified entrance examination for high school graduates. In addition to these circumstances, a large number of companies require new employees to take TOEIC. A majority of examinees have trouble solving listening comprehension problems. We would like to analyze the result of English listening tests which students of this college have been taking, and we would also like to propose some ideas in order to improve listening ability.

Key words.: Listening Ability,

1 はじめに

英語学習においてリスニングの能力については、従来からその重要性が指摘されていた。2002年には「英語が使える日本人のための戦略構想」において、具体的な到達目標として、英語の学力が提案された。それに基づき、中学・高校の英語教員の研修が始まった。大学入試では、2006年度のセンター試験において英語のリスニングテストが始まった。また、企業は大学や短大の卒業生に対して、就職試験において、TOEICの試験の点数を重視するようになってきた。TOEICではその試験の半分がリスニングの試験であり、リスニングの能力をつけることが、本校においても重要な課題になってきた。そのため、授業の中で定期的にリスニングテストを実施して、学生にリスニングの重要性を喚起するとともに、リスニング能力が向上するようにつとめてきた。本論文では、昨年と今年実施したリスニングテストの結果を分析し、リスニングの力を向上させるための方略を提案する。

2 研究の目的

新入生の英語のリスニングの力を調べ、その力を伸ばすために定期的にリスニングテストを実施し、その結果を分析し、さらにリスニングの力を向上させるための方略を提案することである。

3 リスニングテストの実施方法

リスニングテストは1回が7分程度で実施できる日本英語検定協会の「Step Up Listening Step 2」を使用した。1年生の5月から実施し、第10回までを実施したところで一端終了し、もう一度始めか

ら同じ問題を実施することにした。2年生の7月段階までで、第10回までのテストが2回通り終わった。

4 分析の方法

2年生で実施したテストの平均点で30名ずつ上位群、中位群、下位群に分けて、個々の問題について、その正解や誤答の特徴をみることにした。また、1年次と2年次のリスニングの伸張を比べるために、2年生で上位群、中位群、下位群に該当する学生の、2年生で実施した第3回から10回までのテストの平均点を、1年生で実施した同じテストの平均点と比較してみることにした。

5 1年次と2年次のテストの成績比較

Table 1 成績が伸びた人数 (テストは10点満点)

	2.0点以上	1.5点～2.0点未満	1.0点～1.5点未満	0.5点～1.0点未満	0.0点～0.5点未満	計
上位群 30名	4	3	10	7	4	28
中位群 30名	3	4	6	9	4	26
下位群 30名	1	3	1	5	10	20

Table 2 成績が下がった人数 (テストは10点満点)

	0.0点～0.5点	0.5点未満～1.0	1.0点未満～1.5点	1.5点未満～2.0点	2.0点以上	計
上位群 30名	2	0	0	0	0	2
中位群 30名	3	0	1	0	0	4
下位群 30名	3	3	3	0	1	10

上位群では28名が成績が伸び、2名が下がっている。中位群では25名が伸びて、5名が下がっている。下位群では20名が伸びて、10名が下がっている。このことから上位群と中位群ではほとんどの者が成績が伸びている。しかし、下位群では10名の者が下がっていて、全体では4名の者が1.0点以上も下がっている。このテストは10点満点であることを考慮すると、1.0点というのは大きい。下位群の者の中に、学習意欲をなくしてしまった者がいると思われる。

6 テストの結果と分析

テストはPart 1がNo.1からNo.4までの4問、Part 2がNo.5からNo.7までの3問、そしてPart 3がNo.8からNo.10までの3問である。2年生ではテストは第3回から第11回まで9回実施している。

分析するにあたって正答率で80%以上、50%以上で80%未満、30%以上で50%未満、30%未満と4段階に分けた。以下にその分布を示す。

Table 3 Part ごとの正答率の分布

	Part 1 36問	Part 2 27問	Part 3 27問
正答率 80%以上	10	10	6
正答率 50%以上 80%未満	17	15	14
正答率 30%以上 50%未満	8	1	2
正答率 30%未満	1	1	5

1) Part 1 について

No.1からNo.4までは2人の会話が続き、最後の応答として最も適切な答えを4つの選択肢から選ぶ問題である。選択肢だけ用紙に印刷されている。

① 成績が良かった問題

9回分の問題の36問中、80%以上の正答率の問題が全体では10問あり、上位群では22問、中位群では12問あり、下位群では1問もなかった。また上位群では正解率100%の問題が4問である。下位群で一番正答率が良い問題は正解率75%であった。

② 成績の良かった問題例

例1 A: Who cleaned the bathroom?

B: Oh, I did it this morning.

A: Thank you for your help.

B: (3)

1. I don't think so.

2. You're not very sure.

3. You're welcome.

4. I cleaned it with you.

Table 4 第5回 No.3 の問題 解答の分布

	全体	上位群	中位群	下位群
1	5.4 (6)	0 (0)	7.1 (2)	7.1 (2)
2	8.1 (9)	3.3 (1)	10.7 (3)	17.9 (5)
3	87.4 (97)	96.7 (29)	75.0 (21)	75.0 (21)
4	1.8 (2)	0 (0)	0 (2)	0 (0)
無回答	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

受験者総数 114 名 中位群 2 名 下位群 2 名 欠席
数字は%を、()は人数を表している。

この問題は A が thank you とお礼を言った言葉に対して、返答をする決まった表現である。したがって状況さえ理解すれば簡単に解くことができる問題である。

例2 A: Are you getting to Hokkaido?

B: I am going to take a train.

A: The train. Why don't you take a plane?

B: (3)

1. Because I'm thinking

2. Because it's free

3. Because I'm afraid of flying.

4. Because I'll be busy..

Table 5 第3回 No.4 の問題 解答の分布

	全体	上位群	中位群	下位群
1	2.7 (3)	0 (0)	3.6 (1)	7.4 (2)
2	11.7 (13)	10.3 (3)	14.3 (4)	7.4 (2)
3	75.7 (84)	89.7 (26)	67.9 (19)	63.0 (17)
4	9.9 (11)	0 (0)	14.3 (4)	22.2 (6)
無回答	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

受験者総数 111 名 上位群 1 名 中位群 2 名 下位群 3 名 欠席
数字は%を、()は人数を表している。

中位群、下位群となるに従って4を選択した人数が増えている。これでは飛行機に乗らない理由にならない。したがって全文の Why don't you take a plane? を聞き取れていないか、その意味が理解できていないためであると思われる。また上位群で3名の者が2を選択している。これも前文が聞き取れていないか、その意味が理解できていないためであると思われる。

③ 成績が悪かった問題

全体の正答率が30%以下の問題は、9回分の問題36問中1問であり、上位群では0問、中位群では3問、下位群では4問である。

④ 成績が悪かった問題例

例3 A: This is the train to Boston, isn't it?

B: It sure is.

A: Is this seat taken?

B: (2)

1. Of course it is. Go ahead. 2. Yes, it is. Sorry
3. No, I didn't take it. 4. No, I'm free.

Table 6 第4回 No.2の問題 解答の分布

	全体	上位群	中位群	下位群
1	28.8 (32)	34.5 (10)	26.7 (8)	20.0 (6)
2	26.1 (29)	31.0 (9)	16.7 (5)	33.3 (10)
3	44.1 (49)	31.0 (9)	46.7 (14)	36.7 (11)
4	7.2 (8)	3.4 (1)	10.0 (3)	10.0 (3)
無回答	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

受験者総数 118名 上位群 1名欠席
数字は%を、()は人数を表している。

上位群において正解者が 31.0%しかいない。上位群では解答が 1 から 3 までほぼ同じ数字で分かれた。中位群では 3 を選んだ者が最も多い。不正解が多かったのは *Is this seat taken?* の意味が理解できていないためであると思われる。上位群においても、不正解が多かったことを考えると、この英文の表現を知らなかったものと思われる。

例4 A: Excuse me. I live in the apartment below and ...

B: Yes? Is there a problem?

B: Well, I can't sleep because your music is too loud.

A: (2)

1. Oh, I'm sorry. I'll turn it up. 2. Oh, I am sorry. I'll turn it down.
3. That's no problem. 4. Don't think about it.

Table 7 第8回 No.3の問題 解答の分布

	全体	上位群	中位群	下位群
1	25.2 (28)	10.3 (3)	23.3 (7)	41.4 (12)
2	31.5 (35)	41.4 (12)	20.0 (6)	24.1 (7)
3	40.5 (45)	44.8 (13)	46.7 (14)	20.7 (6)
4	7.2 (8)	3.8 (1)	10.0 (3)	13.8 (4)
無回答	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

受験者総数 116名 上位群 1名 下位群 1名 欠席
数字は%を、()は人数を表している。

全体では正答率は 31.5%であり、上位群においても正答率は 41.4%しかない。上位群と中位群においては 3 の *That's no problem.* を答えた者が一番多い。また下位群では 1 の *Oh, I'm sorry. I'll turn it up.* を答えた者が一番多い。問題文の *I can't sleep because your music is too loud.* が聞き取ることができなかったか、あるいは聞き取れても「音を小さくする」という英語の表現を知らなかったどちらかであろうと思われる。いずれにしても語彙力の不足からできなかったと思われる。

⑤ 成績の差が非常にある問題

上位群と下位群との正答率の差が 50%以上ある問題は全部で 8 問ある。

⑥ 正答率の差が上位群と下位群で大きな問題

- 例5 A: Would you like soup or salad with your steak?
 B: What kind of soup do you have?
 A: Tomato or chicken.
 B: (4)
1. I'd like some
 2. I don't like steak.
 3. Chicken salad, please
 4. Tomato soup, please.

Table 8 第8回 No.1 の問題 解答の分布

	全体	上位群	中位群	下位群
1	4.5 (5)	3.4 (1)	3.3 (1)	3.4 (1)
2	7.2 (8)	0 (0)	0 (0)	20.7 (6)
3	21.6 (24)	3.4 (1)	16.7 (5)	41.4 (12)
4	71.2 (79)	93.1 (27)	80.0 (24)	34.5 (10)
無回答	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

受験者総数 116 名 上位群 1 名欠 下位群 1 名 欠席
 数字は%を、()は人数を表している。

上位群と中位群では正答率が高いが、下位群になると極端に悪くなり、上位群と下位群の正答率の差が 58%もある。しかも下位群では3の **Chicken salad, please** を答えた者が一番多い。これは問題文で B がスープのことを尋ねているところが聞き取れなかったためであると思われる。また下位群で2の **I don't like steak.**を選んだ者は、この会話がほとんど理解できていないことを表している。

2) Part 2 について

No.5 から No.7 までの問題は2人の会話を聞き、その会話についての質問に答える問題である。解答は4つの選択肢で、この選択肢だけが印刷してある。

① 成績の良かった問題

全33問中で全体の正答率が80%以上の問題は10問であり、正答率が70%台の問題は7問である。また、正答率が80%以上は上位群では20問、中位群では13問、下位群では0問である。下位群で一番良かったのは66.7%であり、下位群では60%以上の問題は5問であった。

② 成績の良かった問題例

- 例6 A: Good morning. Is this Mr. Davis?
 B: I'm sorry. There's nobody with that name here.
 A: Is this 437- 2626?
 B: No, this is 2622. I think you have the wrong number.
 Question: Why can't the man speak to Mr. Davis?
 Answer (4)
1. Mr. Davis is out.
 2. He's talking to Mr. Davis.
 3. He'll call back later.
 4. He called the wrong number.

Table 9 第3回 No.5 の問題 解答の分布

	全体	上位群	中位群	下位群
1	4.5 (5)	0 (0)	3.6 (1)	14.8 (4)
2	2.7 (3)	0 (0)	0 (0)	7.4 (2)
3	3.6 (4)	0 (0)	3.6 (1)	11.1 (3)
4	89.2 (99)	100.0 (29)	92.9 (26)	66.7 (18)
無回答	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

受験者総数 111 上位群 1 名欠 中位群 2 名 下位群 3 名 欠席
 数字は%を、()は人数を表している。

上位群では全員が正答で、中位群もほとんどが正答である。下位群になると1、2、3、を選んだ者が数名いて正解率が悪くなっている。1と3を選んだ者は会話が理解できていない。2を答えた者は質問が理解できていない。回答者はまずこれは電話の会話で、間違い電話であることを、2人のやりとりから理解しなくては問題を解くことができない。

例7 A: There is a concert at my school next week, Linda. Would you like to come with me?

B: Thanks for asking, Phil. I'd love to.

A: Great. It starts at seven, so let's meet at around six.

B: O.K.

Question: What time will Phil and Linda meet?

1. At 5:00 p.m. 2. At 6:00 p.m.

3. At 7:00 p.m. 4. At 8:00 p.m.

Answer (2)

Table 10 第7回 No.5 の問題 解答の分布

	全体	上位群	中位群	下位群
1	2.7 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	10.7 (3)
2	93.7 (104)	100.0 (30)	93.1 (27)	64.3 (18)
3	5.4 (6)	0.0 (0)	3.4 (1)	17.9 (5)
4	2.7 (3)	0.0 (0)	3.4 (1)	7.1 (2)
無回答	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)

回答者総数 116名 中位群1名 下位群2名 の欠席数字は%を、()は人数を表している。

上位群と中位群では正答率が高いが、下位群では不正解の1、3、4を数名の者が選んでいる。3を選んだ者は、本文の It starts at seven, so let's meet at around six.が聞き取れなかったためか、あるいは2つ数字が出てくるので間違ったか、どちらかであると思われる。

③ 成績の悪かった問題

全体で成績が30%以下の問題は39問中1つである。上位群では一番正答率が悪い問題は46.4%であり、中位群では正答率が30%以下の問題が1問、下位群では3問である。

④ 成績の悪かった問題例

例8 A: I heard you have a pen pal, Tina.

B: Yes, I have two. Carla lives in Italy, and Aya is in Japan. I'm planning to visit Carla this summer.

Question: What does Tina want to do this summer.

Answer (2)

1. Write a letter

2. Visit Italy

3. Visit Japan

4. Find a new pen pal

Table 11 第6回 No.5 の問題 解答の分布

	全体	上位群	中位群	下位群
1	3.6 (4)	0 (0)	3.3 (1)	3.3 (1)
2	27.9 (31)	46.4 (13)	23.3 (7)	20.0 (6)
3	55.0 (61)	35.7 (10)	56.7 (17)	63.3 (19)
4	18.9 (21)	17.9 (5)	16.7 (5)	13.3 (4)
無回答	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

総受験者数 117名 上位群 2名欠席数字は%を、()は人数を表している。

Bの発話が聞き取れているかどうかで問題を解くことができるかどうかが決まる。中位群と下位群では3と答えた者が多い。これはBの中のAya is in Japanの中でin Japanだけが印象強かったものと思われる。

- 例9 A: My husband and I went to Australia in the summer.
 B: Did you have a good time, Cathy?
 A: Oh, it was wonderful. You must go there one day, Pete.
 B: I'd love to. My parents went last year. Maybe I'll go next year.
 Question: Who is thinking of going to Australia next year.
 Answer (3)
1. Cathy
 2. Cathy's parents
 3. Pete
 4. Pete's parents

Table 12 第4回 No.5の問題 解答の分布

	全体	上位群	中位群	下位群
1	8.1 (9)	0 (0)	3.3 (1)	20.0 (6)
2	13.5 (15)	3.4 (1)	10.0 (3)	13.3 (4)
3	32.4 (36)	58.6 (17)	23.3 (7)	10.0 (3)
4	52.3 (58)	37.9 (11)	63.3 (19)	56.7 (17)
無回答	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

総受験者数 118名 上位1名 欠席
 数字は%を、()は人数を表している。

この問題は2人の会話の最後の呼びかけからAがCathyであり、BがPeteであることが分かることが必要である。問題文を聞き取ることができて、さらに英文最後のMaybe I'll go next year.の発話が聞き取ることができれば容易に解くことができる。中位群と下位群では4のPete's parentsを選択した者が多い。これはMy parents went last year.の発話と、それに続く発話が正確に聞き取れていないために4を選んだものと思われる。

⑤ 正答率の差が上位群と下位群で大きな問題

Part 2で正答率の差が上位群と下位群とで40%以上もあるのは14問であり、その内50%以上も差があるのは5問である。

⑦ 正答率の差が上位群と下位群で大きな問題の例

- 例10 A: Excuse me, may I have a menu, please.
 B: Yes of course. Here you are.
 A: Thank you. We'll be ready to order very soon.
 Question: Were are they talking?
 Answer (2)

1. In a school
2. At a restaurant
3. At a bank
4. At a supermarket

Table 13 第9回 No.7の問題 解答の分布

	全体	上位群	中位群	下位群
1	7.2 (8)	0 (0)	3.4 (1)	22.2 (6)
2	82.9 (92)	100 (30)	93.1 (27)	44.4 (12)
3	4.5 (5)	0 (0)	0 (0)	11.1 (3)
4	8.1 (9)	0 (0)	3.4 (1)	22.2 (6)
無回答	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

総受験者数 114名 中位群1名 下位群2名 欠席
 数字は%を、()は人数を表している。

この会話は menu や order などの単語から場面を考えるとすぐに解答できる。上位群と中位群では正答率が高いにも関わらず、下位群では 44.4% と半分を切っている。原因としては英文が十分に聞き取れず、全体の会話の流れが把握できなかったものと思われる。

3) Part 3 について

No.8 から No.10 までの問題は読み上げる文章を聞き、それに対する質問の答えを 4 つの選択肢から選ぶ問題である。答えの選択肢だけ印刷してある。

① 成績の良かった問題

全体では正答率が 80% 以上の問題は 27 問中 6 問であり、上位群では 16 問、中位群では 7 問、下位群では 0 問である。下位群で一番正答率が高いのは 75.0% である。

② 成績の良かった問題例

例11 There are four people in Bob's family. All of them like playing sports. Bob's parents love playing tennis. His brother plays soccer, and Bob likes basketball.

Question: Who likes playing soccer?

Answer (3)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. Bob's parents | 2. Bob's father |
| 3. Bob's brother | 4. Bob |

Table 14 第7回 No.10 の問題 解答の分布

	全体	上位群	中位群	下位群
1	1.8 (2)	0 (0)	3.4 (1)	3.6 (1)
2	14.4 (16)	0 (0)	27.6 (8)	21.4 (6)
3	86.5 (96)	100 (30)	69.0 (20)	75.0 (21)
4	1.8 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
無回答	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

総受験者数 116 名 中位群 1 名 下位群 2 名 欠席
数字は%を、()は人数を表している。

本文中に答えが述べてあり、これが聞き取れればこの問題は解答できる。2 の Bob's father と答えたものが中位群で 8 名、下位群で 6 名いる。これは文章が長くて意味を全部取りきれなかったためではないかと思われる。

例12 Ken is junior high school student. He is very fond of science but not good at math. He goes to special math classes every Saturday and studies very hard.

Question: What subject does Ken like?

Answer (2)

- | | |
|------------|---------------------|
| 1. English | 2. Science |
| 3. Math | 4. Math and English |

Table 15 第9回 No.9 の問題 解答の分布

	全体	上位群	中位群	下位群
1	6.3 (7)	6.7 (2)	3.4 (1)	11.1 (3)
2	82.0 (91)	90.0 (27)	89.7 (26)	48.1 (13)
3	9.9 (11)	3.3 (1)	3.4 (1)	25.9 (7)
4	4.5 (5)	0 (0)	3.4 (1)	14.8 (4)
無回答	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

総受験者数 114 名 中位群 1 名 下位群 3 名 欠席
 数字は%を、()は人数を表している。

本文中の **He is fond of science** が聞き取れればできる問題である。しかし問いは **be fond of** ではなく **like** を使っている。下位群において極端に正答率が悪いが、3 を選んだ者は **be fond of** の意味を知らなかったのではないかとと思われる。語彙力の不足からきていると思われる。

③ 成績の悪かった問題

全体では正答率が 30% 以下の問題は 27 問中 5 問ある。上位群では 3 問、中位群では 5 問、下位群では 8 問ある。

④ 成績の悪かった問題例

例13 Marie went to the bookstore yesterday, but it was too crowded so she went home without buying anything.

Question: What did Marie buy yesterday?

Answer (4)

1. A lot of books 2. Two books
 3. Something for her home 4. Nothing

Table 16 第4回 No.8 解答の分布

	全体	上位群	中位群	下位群
1	19.8 (22)	17.2 (5)	26.7 (8)	23.3 (7)
2	56.8 (63)	44.8 (13)	56.7 (17)	46.7 (14)
3	16.2 (18)	6.9 (2)	10.0 (3)	20.0 (6)
4	13.5 (15)	31.0 (9)	6.7 (2)	10.0 (3)
無回答	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

総受験者数 118 名 上位群 1 名 欠席
 数字は%を、()は人数を表している。

始めの文章から本屋に行ったことが聞き取れれば 1 か 2 を選択したくなる。ところが最後の **without buying anything** を聞き取れないと正答を選ぶことができない。そのため 1 か 2 を選んだ者が多くなっている。

例 14 There was an accident yesterday on the corner near Mark's house. Two cars hit each other. Both of the cars were badly damaged but nobody was hurt.

Question: What happened to the people in the cars.

Answer (4)

1. They went inside Mark's house. 2. They were badly damaged.
 3. They started fighting. 4. They were OK.

Table 17 第5回 No.10 の問題 解答の分布

	全体	上位群	中位群	下位群
1	42.3 (47)	30.0 (9)	39.3 (11)	46.4 (13)
2	39.6 (44)	63.3 (19)	42.9 (12)	14.3 (4)
3	11.7 (13)	3.3 (1)	10.7 (3)	25.0 (7)
4	9.0 (10)	3.3 (1)	7.1 (2)	14.3 (4)
無回答	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

受験者総数 114 中位群 2 名 下位群 2 名 欠席
 数字は%を、()は人数を表している。

交通事故が起こったのであるから2を選びたくなる。しかし最後の *nobody was hurt* が聞き取ることができれば正答を選ぶことができる。この問題で興味深いのは上位群が一番正答率が悪く、中位群、下位群となるにしたがって正答率が良くなっていることである。しかし、全く関係のない1を選んだ者が下位群で一番多く、4を選んだ者は果たして十分理解して選んだかどうか疑問である。

⑤ 上位群と下位群の正答率の差が大きい問題

上位群と下位群の正答率の差が40%以上もある問題は8問ある。その中で、60%以上も差のある問題が2問ある。

⑥ 上位群と下位群の正答率の差が大きい問題例

例 15 Peter usually rides his bicycle to school, but this morning there was too much snow so he had to walk.

Question: How did Peter get to school today?

Answer (3)

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1. By bicycle | 2. In the snow |
| 3. On foot | 4. In the morning |

Table 18 第3回 No.8 の問題 解答の分布

	全体	上位群	中位群	下位群
1	15.3 (17)	0 (0)	17.9 (5)	25.9 (7)
2	10.8 (12)	0 (0)	3.6 (1)	22.2 (6)
3	68.5 (76)	100 (29)	71.4 (20)	37.0 (10)
4	4.5 (5)	0 (0)	7.1 (2)	11.1 (3)
無回答	0.9 (1)	0 (0)	0 (0)	3.7 (1)

総受験者数 111 名 上位群 1 名 中位群 2 名 下位群 3 名
数字は%を、()は人数を表している。

文章最後の *he had to walk* が聞き取ることができれば正答を見つけることができる。しかし下位群では正答率が少ない。これは選択肢が *on foot* となっていて *walk* と表現が異なっているために間違えたと思われる。これは *on foot* という表現を知らなかったためであると思われる。また、下位群では2と4を選択した者が数名いるが、これは設問の意味を聞き取れなかったためであると思われる。

7 リスニングテストの評価

1) 成績の伸張度

リスニングテストを1年生の始めから2年生の前期まで実施してきた。その結果、上位群に位置する者はほとんどがリスニングテストにおいて上昇が見られた。中位群になると成績が下がった者が数名出てきた。しかし、大半の者は上位群よりは上昇の度合いが少ないものの上昇が見られた。下位群になると成績が下がった者の数はさらに増えた。学習意欲の欠如が心配される。下位群も半数以上の者が上昇しているが、その伸び率は中位群よりもさらに少ない。以上のことから上位群ほど成績の上昇があることが分かる。つまり伸張度は学習意欲によるところが大きいと思われる。

2) Part ごと の評価

リスニングテストは Part 1, Part 2, Part 3 と3種類あるが、少し長めの文章を聞いて、質問に答える Part 3 に成績の悪い問題が多い。Part 1 や Part 2 では、場面や人間関係が分かると、問題を解く手がかりになることがあるが、Part 3 では少し長めの文章を正確に理解しないとできない問題が多い。いきおい、回答者は自分が理解できたところ、つまり主に前半の理解できた部分で判断し、解答しよ

うとする。

問題で正答率の高い問題は、その答えが読み上げる本文の中にある問題である。しかし、少し考えなければならぬような問題になると下位群では特に正答率が下がる傾向にある。

8 結論

リスニングの問題は実際の対話と違って、いったん聞き逃してしまうとできなくなる。したがって、日本語以上に注意して聞かなければならない。しかし、「1語も聞き逃すまい。」と緊張して聞こうとしても、すぐに疲れてしまってその緊張は長くは続かない。それではどのような方略でリスニングの問題に取り組めばいいのだろうか。

実施したリスニングテストの分析の結果から、リスニングの能力を上げるために次のことが結論として述べるができると思われる。

- 1) 基本的な単語や熟語をしっかりと覚えることが先決である。

本校で実施したリスニングテストを分析する中で分かったことは、基本的な英語の語彙や熟語を知らないためにできなかったと判断される問題が、下位群において多く見られたことである。当然のことながら、知らない英単語や熟語を聴き取ることはできない。まずは本校の学生は基本的な単語や熟語をしっかりと覚えなければならない。

- 2) Part 1 や Part 2 のような対話の問題では、2人の人間関係や会話の場面を掴むようにする。

Part 1 や Part 2 のような対話についての問題では、2人の人間関係が親子なのか、友人なのか、教師と生徒との関係かなどなど、どんな関係であるのか、またその会話が、レストランでの会話か、駅での会話かなど、どんな場面でされているのかが分からなければ、内容を十分に理解することができない。したがって、英文の対話を聞きながらすばやくそのようなことを掴むようにすることが大切である。

- 3) Part 3 のような少し長めの文章を読み上げる問題では、自分独自の簡単なメモを取りながら聞いて、全部覚えなくてもいいようにする。

Part 3 の問題は英文が少し長い。この内容を短期記憶として全部覚えておくことは苦しくなる。¹自分で分かるような記号を使いながら、時間とか、場所とか、などをメモを取るようにして、記憶の負担を軽くしておくことが良いと思われる。

- 4) 聞きながら次に何がくるのか予想しながら聞くように努める。

日本語でも英語でも対話には当然流れがある。英文を聞きながらその流れを掴むためには、その先を予測しながら聞くようにすることが大切である。

- 5) 自分ができなかった問題を見直して、どこができなかったのかよく調べること。

自分ができなかった問題を見直して、どの問題がどうしてできなかったのか、どこが聞き取れなくてできなかったのかをよく調べて弱点を知ることが必要である。その時に大切なのは、数単語から構成される意味の単位として、どこが聞き取れなかったのかを知ることが大切である。²

注

1 小池生夫(1993) p.33 のリスニングのモデルによれば、人間がある発話を聞いて、その内容を理解するまでには、幾層にもわたる複雑な過程を経ると述べてある。その過程の中に短期記憶段階がある。

2 小池生夫(1993) pp.30-32 によれば、音声理解の最小単位は音素ではなく、それよりも大きな、ある種の文法単位であるとされている。

参考文献

- 小池生夫(1993) 『英語のヒヤリングとその指導』 東京、大修館書店
東照二 (2000) 『バイリンガリズム』,東京；講談社
山田恒夫、足立隆弘 (1998) 『英語リスニング科学的上達法』.東京；講談社
吉田研作 (1988) 『英語リスニング上達の方法』,東京；the Japan Times
Thane, D. A (2002) 『英語 確実に聴き取る技術』,東京；河出書房